

平成29年度 自己評価

I 「保育の計画性」についての検証及び改善策

保育の計画は学年のリーダーを中心にクラスや学年の子どもの実態に合わせて見直しをしながら保育に活かすことができていた。しかし、新規採用職員が多い年であったが幼稚園の教育方針や教育理念の理解について職員間で話し合いをする機会が少なく、職員間での園の教育方針や教育理念の理解度に差があるように感じられる。幼稚園教育要領に関しては全職員に関して理解度が低い為、今後は平成30年より改訂される認定こども園教育・保育要領に関して職員間で話し合いをする機会を増やし、新しい要領に合わせた保育の計画が立てられるよう努めていきたい。

II 「保育への在り方、幼児への対応」についての検証結果及び改善策

子どもの健康と安全への配慮については各職員の意識が高く、朝の視診や保育中の子どもの体調の変化にもすぐに気付き対処が出来ている。うがい・手洗い指導を始め、定期的な消毒や嘔吐処理の徹底等に加え、欠席者情報や伝染性の病気の流行状況を父兄へも発信し、予防と感染拡大への注意喚起がきちんと行われている。また、各職員が学年・クラスの枠にとらわれず全園児についての情報をお互いに情報交換できるよう話し合いの場を設けたり、参加できない職員へは職員連絡簿等を活用してお互いに情報周知できるよう体制が整っている。

III 「保育者としての資質や能力・良識・適正」についての検証結果及び改善策

職員一人一人が保育を通して子ども達と一緒に楽しみ、活動の中で子どもの成長に喜びを感じることが出来ている。教職員全員で一つのチームであるということを意識し、お互いに意見交換をしたり、良識ある付き合い方をしている。また、定期的に身だしなみのチェックや職員心得の読み合せ等を行い保育者としてふさわしい行動を心がけている。全体的に自然や社会の出来事、地域のことへの関心が低い為、まわりを感じ取れる感性を各職員が高めていきたい。

IV 「保護者への対応」についての検証結果及び改善策

怪我・トラブル・クレーム処理最優先で対応し、その内容を職員間で話し合ったり、情報周知することで経験の少ない職員も疑似体験することができ、各職員の評価が高い。日頃から子どもの様子を手紙や連絡帳で伝えたり、定期的な学年だより等での情報発信ができています。保護者からの要望だけでなく、職員からも教育相談に誘い、日頃の子どもの園での様子を伝える場を設けるように努めている為、保護者からの信頼も得られていると考えられる。今後も一人一人の子ども・保護者に対して丁寧な対応を心がけていきたい。

V 「地域の自然や社会との関わり」についての検証結果及び改善策

園周辺や園外保育において職員と共に子ども達も地域の人々と親しく挨拶を交わすことができています。年長児を中心に近隣小学校との交流を深めたり、職員も小学校の授業参観や運動会見学に赴く等の機会を大切にし、卒園児の活躍の姿も見守っている。今年度より認定こども園となり、より子育て支援の場として地域社会から求められるようになってきているが引き続き園庭開放や定期的な入園説明会等を設け未就園児保護者の子育ての悩み相談を受けたり、入園前の疑問や不安を取り除けるように努めていきたい。

VI「研修と研究」についての検証結果及び改善策

経験年数に応じた研修への参加やその後の情報共有も積極的に行われているが、各職員が自己課題を明確にし、自ら専門的な知識を身に付けようとする機会はまだ少ないと感じられる。教師としての専門性や今日的課題に関する研修への参加は各職員により個人差があり、評価にもバラつきが見られる。アレルギーや障害のある子どもへの保育の在り方について今後は知識を高め、様々な子ども、保護者に対応ができるように努めていきたい。

5 今後取り組むべき課題

園の教育方針・教育理念について全職員が共通の認識のもと保育が行われるよう話し合いの機会を増やしていきたい。また、平成30年3月に改訂される認定こども園教育・保育要領について各職員の理解を深め、実際の指導計画が継続性を持って作成されるように努めていきたい。認定こども園となり、様々な生活形態や在園時間の異なる子ども達を預かり、保育する中で一人一人の子どもに合わせた丁寧な対応・指導ができるように今後も職員間での情報周知や話し合いの場を大切にしていきたい。